

「保育内容等の自己評価」のための新チェックリスト 保育士篇

2024年度

自己評価チェック内容	記入欄	
	イ	ロ
	出来ている	努力が必要

1 保育の理念・保育観		
1-1	あなたは全ての子どもについて、一人ひとりの存在と人権を尊重していますか。	
1-2	児童福祉法の理念に基づき、子どもの最善の利益を考慮して、子どもの生活と健全な発達を保障することが保育園の重要な使命だと理解していますか。	
1-3	あなたは、日頃から「保育所保育指針」をよく読み、その理念を理解した上で、保育内容や保育方法を考えるときのガイドラインとしていますか。	
1-4	あなたの保育が、子どもの生涯の基礎を培う極めて大切な役割を担っていると認識して保育していますか。	
1-5	あなたは、保育所保育は養護と教育が一体となって行われている、ということを意識して保育していますか。	
1-6	今日の保育園には、入園している子どもの保育だけでなく、広く地域の子育て支援をする社会的役割があることを認識していますか。	
1-7	あなたは、子どもに文化や生活習慣、考え方が多様であることを知らせ、それらを尊重する心を育てよう努めていますか。	
1-8	子どもの性差や個人差にも留意しながら、固定的な性別役割分業意識を植え付けることのないように配慮していますか。	
1-9	あなたは、日頃から、子どもに身体的苦痛を与えたり、人格を辱めるなど精神的苦痛を与えることがないようにしていますか。	
1-10	あなたは、個人情報の保護に配慮し、子どもやその家庭についての秘密を正当な理由なく漏らすことがないようにしていますか。	
1-11	あなたは、「子ども・子育て応援プラン」に、若者の就労支援や男性の子育て参加等が盛り込まれていることを知っていますか。	
1-12	様々な特徴を持つ子ども持たない子ども、一人ひとりのありのままの姿を受けとめ、すべての子どもが健やかに成長することを願って保育をしていますか。	
1-13	育児の考え方について保護者とあなたが食い違っているとき、先ず相手の気持ちを受けとめ、話し合い、その保護者の立場や考え方を理解するよう努めていますか。	
1-14	子どもの家庭状況は多様だという考えの上で、今、その子に何が必要かを見極め、それぞれにとって適切な援助をしていますか。	
1-15	子どもが熱中しているときは、その時の保育の内容や流れに変更が生じて、危険のない限りその活動を見守るなどの柔軟性を持っていますか。	
1-16	あなたは、子どもと一緒に思いきり体を動かして遊ぶことの重要性を理解し、楽しんでいきますか。	

1-17	あなたは、一人ひとりの子どもに目が行き届いていたか振り返り、これからの保育の課題を見つけることができますか。		
	合計	17項目	

2 保育の内容			
1)保育計画・指導計画			
2-1	あなたは、指導計画を作成するとき「保育所保育指針」を読み、参考にしていますか。		
2-2	あなたは、保育園の方針である保育計画をもとにして、指導計画を作成していますか。		
2-3	保育には指導計画（年・月・週・日案など）の作成という、あらかじめ見通しを持った計画性が必要だと思いますか。		
2-4	あなたの月・週案などには、教育的側面（五領域の視点）だけでなく、養護的側面（基礎的事項）もしっかりと盛り込まれていますか。		
2-5	あなたは、指導計画を作成するときに、地域の実態や保護者の意向・希望などを考慮していますか。		
2-6	子ども一人ひとりの発達の姿や興味の対象の実態を把握して、月・週・日案などを作成していますか。		
2-7	あなたの月・週・日案などには、子どもの意欲を誘う環境構成が十分工夫されていますか。		
2-8	複数担任の場合、よく話し合ってお互いの考えを十分に理解した上で、月・週・日案などを立てていますか。		
2-9	園の保育理念や方針・目標、あなたの作成した年・月・週・日案などのねらいや内容を、保護者に分かるように説明できますか。		
2-10	あなたは、季節感や日本の伝統的な行事などを指導計画のなかに取り入れるようにしていますか。		
2-11	月・週・日案などが、実際の子どもの姿、興味・関心に合っていたかという視点から自分の保育を評価・反省していますか。		
2-12	月1回以上、自分自身の指導計画の点検・評価を行い、その結果を次の指導計画に生かしていますか。		
	合計	12項目	

2)乳児保育			
2-13	あなたは、一人ひとりの子どもの出生時の状況、その後の発育・発達など、生育歴を細かに把握するとともに、保護者の状況などの背景も理解していますか。		
2-14	哺乳瓶の消毒、調乳、沐浴の仕方など基本的な事柄や、子ども一人ひとりの健康状態などを、随時職員相互で確認し合っていますか。		

2-15	授乳について、その子が欲しがるときにやさしく抱いて微笑みかけ、ゆったりと飲ませて いますか。		
2-16	離乳食は、家庭と連携をとりながら、一人ひとりの発達過程やその日の体調に合うよ うに工夫していますか。		
2-17	その子にとって初めての食品を食べさせたときは、皮膚や便性などに異常がないか観 察していますか。（※家庭で2回以上食べている食品）		
2-18	おむつ交換は「きもちいいね」などやさしく声をかけたり、マッサージしたりし て、排便の回数、便性を把握して臀部を清拭していますか。		
2-19	赤ちゃんの目の動き、泣き声、しぐさ、片言をメッセージとして受け止め、ほほえ み、要求に応じる言葉をやさしく返していますか。		
2-20	子どもを外気に触れさせたり、適度な戸外遊びをさせたりして、健康増進をはかるよ うにしていますか。		
2-21	喃語には、ゆったりと応えたり、やさしく話しかけたりして、発語の意欲を育んでい ますか。		
2-22	絵本を見せながら、その子の指さすものに答えたり、やさしい言葉を添えたりして、 あなた自らもそのやり取りを楽しむことができますか。		
2-23	あなたがどんな状態にあるときにでも、赤ちゃんの笑顔やしぐさをかわいいと感じる ことができますか。		
2-24	あなたは、自分の服装の色合い、頭髪・爪などの清潔や、室内の清掃にも配慮してい ますか。		
2-25	乳児を寝かせる場合には、仰向けに寝かせるようにするとともに、睡眠中の姿勢、か けぶとん、呼吸等の確認をしていますか。		
2-26	一人ひとりの生活リズムや欲求、その日の体調等を把握した上で、睡眠の時間を調節 したりする柔軟性を持ち合わせていますか。		
2-27	連絡帳を活用するなどして、保育園以外での子どもの様子も把握するように努めてい ますか。		
	合計	15項目	

3) 3歳未満児保育（1・2歳児保育）			
2-28	大勢の子どもを保育するときでも、あなたを独占したがるその子の気持ちも十分に満たすなど 子どもの背景に配慮しながら、個別対応の努力や工夫ができていますか。		
2-29	「できない、やって!」と甘えてくるときは、その都度、その子の気持ちを受け止 め、一人ひとりの発達に応じて要求を満たす援助をしていますか。		
2-30	あなたは子どもの「これなーに?」、「どうして?」などの繰り返しの質問に、忙しい ときでもできるだけその都度応えようとしていますか。		
2-31	探索活動が十分行えるよう、安全にはよく気を配りつつ、環境を整えたうえで、子ど もが要求する行動を容認できますか。		
2-32	着替えや食事などの時には、その子に応じた手助けやことばかけをしながら、時間を 要しても自分からしようとする気持ちを大切にしていますか。		

2-33	食べ物をこぼしたり汚したりしながらも、子どもが自分で食べる意欲を育てるために、楽しい雰囲気ですることができることを第一に考えていますか。		
2-34	子どもがおもちゃの取り合いなどでぶつかり合うとき、危険のないよう配慮しつつ、子どもの発達の程度や心の動きを考えながら、しばらく見守ることができますか。		
2-35	「おや、何だろう?」、「これで遊ぼう」と好奇心や興味を引き起こす材料や素材、場を用意する心配りをしていますか。		
2-36	散歩の時、保育者も一緒に楽しみながら、花や葉、虫や動物などを見つけたりして、子どもとともに自然物や動物への興味・関心を持つことを大切にしていますか。		
2-37	子どもと会話をするときに、その子の目線に合わせて話をゆっくり聞いて、子どもの話したい気持ちや伝わった喜びを共感していますか。		
2-38	あなたは、自分の表情に配慮しながら、子どもにわかるように、ゆっくり、はっきり、おだやかに、具体的な短い言葉で語りかけていますか。		
2-39	子どもに「絵本を読んで」、「遊んで」と言われた時に、場面に応じて「待って」と言った場合にも、その理由を伝え、その子の気持ちに応えていますか。		
2-40	歌を歌ったり、リズムによって体を動かすとき、あなたは歌や動きを子どもに合わせて、一緒に楽しむことができますか。		
2-41	わがままで「いやだ」という子どもの内面に配慮しながら、その子の気持ちを肯定的な方向に向けるようにしていますか。		
2-42	自分の思いどおりにならず、おこったり泣いたりする子どもに対して、ていねいに話してきかせたり、気持ちを切り替える時間をとり、ゆったりと待つことができますか。		
	合計	15項目	

4) 特別な配慮や支援を必要とする子ども（障がい児）の保育			
2-43	保育園は、障がいを持つ子どもそうでない子ども「共生」「共有」の観点から、当たり前のごときとして保育するという考え方にあなたは共感しますか。		
2-44	障がい児が入園した時、安全管理や個別対応などその子を受け入れるための保育を、積極的に進めようと考えていますか。		
2-45	障がい児について素朴な疑問をなげかけてくる子に対して、必要に応じて障がいの性質や行動の困難さなどについて、丁寧に説明していますか。		
2-46	あなたは、障がい児もそうでない子ども互いのよさを感じとり、楽しく交流できる雰囲気づくりに励んでいますか。		
2-47	あなたは、障がい児の世話をし過ぎる子どもや、逆に無関心な子どもの存在に気づき、それへの配慮を心がけていますか。		
2-48	あなたは園内研修（ケース会議）やクラス内の会議などで積極的に議論することにより、園内の障がい児への理解を深めるように努力していますか。		
2-49	あなたは、障がい児により適切な保育をするために、様々な専門機関等と連携をしていますか。（連携をしたいと考えていますか。）		

2-50	障がい児の保護者が、様々な苦しみや悩みを抱えてきていることを、触れ合うなかで感じるがありましたか。		
2-51	日常的に障がい児の保護者との話し合いの場等を設けて、不安や焦り等悩みを抱えている保護者の気持の援助に心がけていますか。		
2-52	就学に向けて相談する障がい児の保護者に対して、保護者が自分で方向を決めていけるように相談に応じたり、情報提供をしたりしていますか。		
2-53	障がい児を受け入れる園の方針を、健常児の保護者に理解してもらえるように努力していますか。		
2-54	障がい児保育をより豊かなものにするために、子どもたちにふさわしい環境・物的環境（遊具等）を整えるなどの努力をしていますか。		
	合計	12項目	

5) 行事			
2-55	あなたは、園が従来から続けてきた「行事」について、その意味について十分に考えてから、保育の中に組み込んでいますか。		
2-56	「行事」を保育に取り入れるときには、それが子どもの健やかな育ちにつながる意味をもつことを意識していますか。		
2-57	みんなで楽しむとともに、一人ひとりが十分に自分の力を発揮できるような「行事」となっていますか。		
2-58	あなたは、子ども達にとってその季節や時期にしか味わえない有意義な体験となるよう「行事」に工夫を凝らしていますか。		
2-59	子ども達が期待を持って「行事」に参加できるよう、年間計画の段階から子どもの主体性を尊重する保育場面を用意していますか。		
2-60	「行事」に参加することを嫌がる子どもには、その気持ちをくみ取って、行事の中でその子が活動できる場面を用意していますか。		
2-61	保護者が参観する「行事」のときには、保護者の評価にあまりとらわれず、日常の子どものあるのままを見てもらおう気持ちのゆとりをもっていますか。		
2-62	あなたは、「行事」が、子どもの生活や遊びから発展していくように、日常の保育の積み重ねの結果となるよう心がけていますか。		
2-63	保護者や地域住民にも参加してもらうような「行事」については、園だよりや広報紙・連絡帳等で事前にその趣旨を説明し、理解や協力を要請していますか。		
2-64	子どもも保護者も期待感を持つ「行事」には、あなた自らも喜んで、余裕をもって参加できていますか。		
	合計	10項目	

6) 延長保育			
2-65	長時間にわたる保育を受ける子どもには、特に畳やカーベットで寝転ぶことができるようにするなど、家庭的雰囲気配慮していますか。		
2-66	次々にお迎えが来るなかで、「ママ来ないね」のつぶやきに対して、その子の気持ちを受け止めて、安定した気持ちで待つことができるような適切な対応をしていますか。		
2-67	あなたは延長保育で、一人ひとりが好きな遊びができるように配慮していますか。		
2-68	延長保育の子どもには、担任でなくても、園での様子が保護者に十分伝わるよう、連絡帳やおたよりを活用していますか。		
2-69	延長保育の時間帯には、とりわけ異年齢の子ども同士で遊べるような工夫をしていますか。		
	合計	5項目	

7) 3歳以上児保育			
2-70	子どもが緊張したり、不安を感じたときには温かく受け止め、親のようにやさしく接するなど、家庭的な雰囲気づくりに心がけていますか。		
2-71	あなたは、子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるように、いつも心を開いて、信頼関係をつくる努力をしていますか。		
2-72	子ども一人ひとりの背景や保護者の状況を理解し、受けとめて、安心して甘えられるように、その子の気持ちに寄り添い、支えていますか。		
2-73	あなたは、今まで大事に飼っていた小動物が死んだとき、子どもと悲しみを共有し、生命の大切さを伝えていますか。		
2-74	子どもが自己表現できるように、その時々々の要求や気持ちを読み取り、どの子どもも自分が愛されていると実感できるように接していますか。		
2-75	子ども一人ひとりの必要に応じて、心も体もゆったりとくつろげるための空間と時間をつくり出す努力をしていますか。		
2-76	少しでもふだんと違う具合の悪そうな子どもに気づいたら、自分の体の不調を訴えられるように、やさしく問いかけていますか。		
2-77	日常生活でのしぐさをよく観察して、行動や身体の異常などの早期発見に努めていますか。		
2-78	季節感を味わえる環境を整えたり、心地よい音楽を流すなど、和やかにくつろいで過ごせる室内の環境づくりを心がけていますか。		
	合計	9項目	

3 保健活動・安全管理			
3-1	身長・体重等の測定や医師の診断から、発育・発達の状態を把握して、それを保護者や他の職員に伝えるとともに、日常の保育に生かしていますか。		

3-2	その子の体調の些細な変化や異常に速やかに対応するために、日常的な体調や機嫌の状態をつかむよう努めていますか。		
3-3	あなたは、子どもに何らかの異常が見つかった場合、より適切な処置ができるように、嘱託医の指導を受けるなど日頃から学習をしていますか。		
3-4	あなたは、健康観察で子どもの健康状態をある程度判断することができますか。		
3-5	子ども一人ひとりの体調をしっかり把握し、食事の量や内容を変えるなどの配慮をしていますか。		
3-6	あなたは、睡眠中の子どもの顔色、呼吸の状態を観察するなど、SIDS等への予防に努めていますか。		
3-7	アトピー性皮膚炎・食物アレルギー等の子どもに対して、医師の指導のもとに適切な対応をしていますか。		
3-8	あなたは、日頃から虐待の早期発見を心がけ、虐待が疑われる場合には、園長に伝えるなどの防止策を考えていますか。		
3-9	備品棚やピアノなどの転倒防止、その他事故が起こらないように、あなたの保育室内外の安全点検を、毎日怠らないように努めていますか。		
3-10	園庭にガラスの破片など危険なものがないか調べたり、砂場を掘り起こして整えるなど、安全な環境づくりの努力をしていますか。		
3-11	地震等の災害や火災に備え、積極的に避難訓練等に参加し、非常災害時にあなたが何をしなければならないか理解していますか。		
3-12	登降園時の事故防止について、保護者が何を注意すればよいか、あなた自身が説明することができますか。		
3-13	そのまま見過ごしたら明らかに危険な行動には、理由を説明して「いけません」、「やめなさい」などの言葉ではっきりと制止していますか。		
3-14	不審者が侵入した場合に備えて、子どもの安全を確保するための対応策を日頃から心がけ、職員間で話し合っていますか。		
	合計	14項目	

4 保護者・地域社会・関係機関との連携			
4-1	園での様子を伝え家庭での様子を聞くなかで、子どもの育ちを保護者とともに、考え、喜び合うことができますか。		
4-2	その日の子どもの健康状態や興味を持った遊びなど、必要に応じてお迎え時に保護者に丁寧に伝えるように努めていますか。		
4-3	保護者から突然、お迎えが遅くなると連絡があった時にも、快く応対するよう努めていますか。		
4-4	保護者が育児の悩みや心配事を話してみたくなり、一緒に考えてくれる存在であると思えるよう、あなたはこちらからすすんで触れ合うことを心がけていますか。		
4-5	たとえあなたの保育に批判的な保護者であっても、対立せずに受容し、意見や要求を聞こうとする姿勢が持てますか。		

4-6	あなたは、保育に関する保護者の考えや提案を積極的に聞き、保育の流れの中で適切と思うものについては、園長等と話し合ったうえで受け入れるよう努めていますか。		
4-7	保育園が、保育参観だけでなく時には保護者に保育参加（保育に直接加わる）をしてもらう方針を決めた場合、協力できますか。		
4-8	あなたは、連絡帳を、保護者がその内容をよく理解でき、楽しみにするような書き方をしていますか。		
4-9	保護者同士が相談相手になれるよう、お互いをよく知り合う機会を多く設ける努力をしていますか。		
4-10	地域の人たちによるボランティア活動などをどのように保育に組み入れたらよいか職員間で話し合い、あなた自身もきちんとした見通しを持っていますか。		
4-11	老人会、町内会など地域組織と連携するとき、保育士としてどういう役割を担うべきか、考えたことがありますか。		
4-12	放課後遊びに来る学童や卒園児にも、園の子どもと一緒に仲間に入って楽しく遊べるような配慮をしていますか。		
4-13	あなたは、保育園が地域の中学・高校の生徒との交流をしたり、実習生を受け入れるときに、めんどくがらずに指導することができますか。		
4-14	散歩や行事などで、子どもたちが地域の人々と触れ合う機会を持つようにするとともに、気持ちよくあいさつを交わしていますか。		
4-15	地元の公共機関を利用するなど、地域の人々にかわいがられて、子ども達が豊富な社会体験を得られるようにしていますか。		
4-16	公園などの公共の場を使用した後は、あなたは子どもたちと一緒に清掃するなど、気を配っていますか。		
4-17	あなたは言葉が通じない外国人に、尻込みしないで身ぶり手ぶりやIT機器を利用して対応できますか。		
合計		17項目	

5 地域の子育て支援			
5-1	あなたは、日頃の保育内容、子どもたちへの保育方法のすべてが、地域の子育て支援につながることを自覚していますか。		
5-2	あなたは、保育園には子育て相談などの「地域の子育て支援」という役割が求められていることを受け止め、自分も積極的にかかわりたいと考えていますか。		
5-3	あなたは、相談の基本原則（受容・相互信頼関係・個別性・自己決定・秘密保持）について理解し、子育て相談の実践に生かしたいと考えていますか。		
5-4	あなたは、本来業務の保育に支障がない限り、電話相談などの子育て支援を行いたいと思いますか。		
5-5	あなたは、子育て相談を実施する際に連携すべき機関等（保健センター・児童相談所・福祉事務所・医療機関等）の機能についてよく知っていますか。		

5-6	あなたは、子育てサークル・子育てボランティアの育成・支援に関心があり、勤務園が実施するときには、協力するつもりですか。		
5-7	保育園が発信元になって、園の保護者以外にも子育ての大切さや喜びを伝える役割を担っていることを理解していますか。		
	合計	7項目	

6 保育園の職務・役割分担			
6-1	園長や主任、主担任の指示がどういう意図で出されているかわからないとき、あなたは質問をしたり意見を言ったりできますか。		
6-2	登園を嫌がるが続くなど、問題を感じたとき、あなたは園長や主任、同僚などに、その原因や対策のしかたを相談していますか。		
6-3	あなたは、職員会議や未満児会議、以上児会議などで必要と思う質問や意見をはっきり発言することができますか。		
6-4	栄養士など保育士以外の職種の人たちが保育にかかわるとき、その人たちへの気配りや協力関係に配慮するとともに、保育士としてのあなたの役割がなんであるか理解していますか。		
6-5	あなたは、保育士として、他の職種の職員や非常勤の職員にどんな役割を果たしてほしいか、具体的な期待をもっていますか。		
6-6	あなたは、欠勤した日の出来事や連絡・注意事項は、自分から尋ねて理解するなど、職員間の連携に努めていますか。		
6-7	あなたは、自分のクラスの教材や備品を、責任をもって毎日点検・管理していますか。		
6-8	あなたは、たとえ自分のクラスのものでなくても、教材・教具などの管理が不備であれば、自らすすんで整えることができますか。		
6-9	あなたの本来の業務以外に保育園にかかわる仕事を頼まれたとき、それも職務の一端と考え、責任をもって引き受けていますか。		
	合計	9項目	

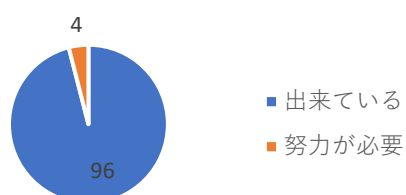
7 保育士としての資質向上（研修・研究活動）			
7-1	あなたは、保育士としての責務と誇りを自覚して、人間性と専門性の向上に努めていますか。		
7-2	あなたは、自分の保育を振り返り、問題点や課題を見つけることができますか。		
7-3	自分の保育に対する同僚や上司からの批評や意見を、感情的にならず謙虚に聞き、時には反省することができますか。		
7-4	保育をする中で生じた疑問や悩みを、同僚や上司にわかるように説明することができますか。		

7-5	あなたは、その日の子ども一人ひとりの活動や姿を、しっかり記録に留めることができますか。		
7-6	あなたは、どのような子どもについても、一人ひとりの課題を見つけ、ケーススタディーをすることができますか。		
7-7	あなたは、保育の悩みや疑問を解決するために、研究・専門書を見つけて、そこから学ぶことができますか。		
7-8	あなたは、他のクラスの保育について、疑問や感想・意見を、お互いの向上のために、言葉に配慮しながら素直に述べるすることができますか。		
7-9	あなたは研修で得た内容・成果は、園の職員にわかるように丁寧に説明し、意見交換をするために役立てていますか。		
7-10	あなたは、積極的に研究グループやサークルに参加して独自に勉強していますか。		
7-11	あなたは、研修会の機会があれば、自費でも参加したいと思いますか。		
7-12	あなたの保育実践について、園長はじめ他の職員が把握できる保育日誌などの記録を書けていますか。		
	合計	12項目	

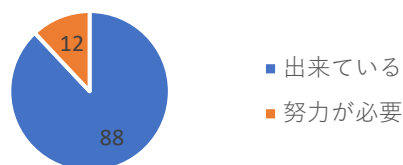
2024年度実施した保育士及び看護師の課題内容・分析・総評

●結果

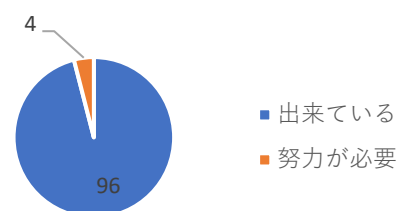
1 保育理念・保育観



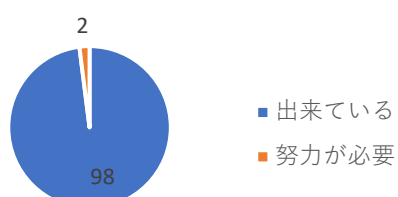
2 - 1 保育内容



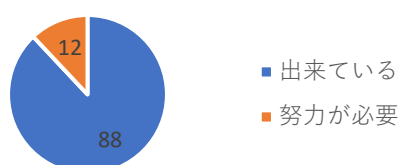
2 - 2 保育内容



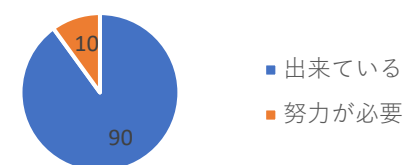
2 - 3 保育内容



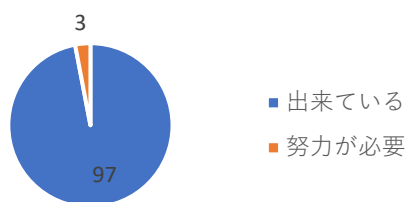
2 - 4 保育内容



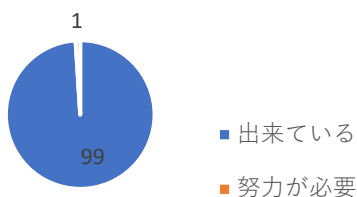
2 - 5 保育内容



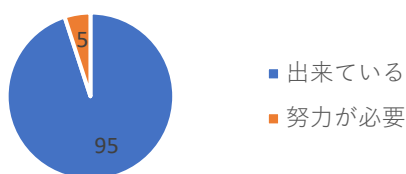
2 - 6 保育内容



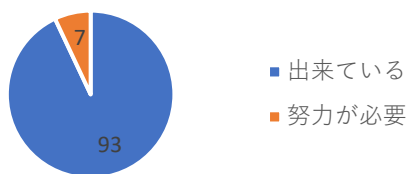
2 - 7 保育内容



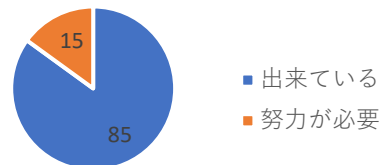
3 特別な配慮や支援



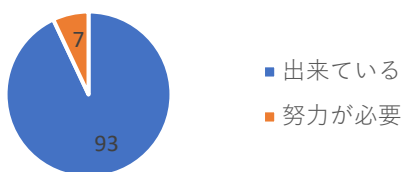
4 行事



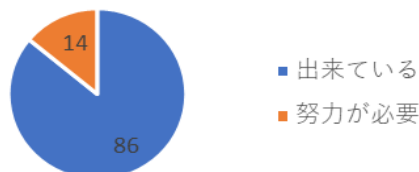
5 地域の子育て支援



6 職務、役割分担



7 保育の質の向上



●課題内容

〔1-11〕あなたは、子ども・子育て支援制度（「子ども・子育て応援プラン」）に、若者の就労支援や男性の子育て参加等が盛り込まれていることを知っていますか。

〔2-13〕あなたは、一人ひとりの子どもの出生時の状況、その後の発育・発達など、生育歴を細かに把握するとともに、保護者の状況などの背景も理解していますか。

〔2-52〕就学に向けて相談する障がい児の保護者に対して、保護者が自分で方向を決めていけるように相談に応じたり、情報提供をしたりしていますか。

〔3-3〕あなたは、子どもに何らかの異常が見つかった場合、より適切な処置ができるように、嘱託医の指導を受けるなど日頃から学習をしていますか。

〔4-10〕地域の人たちによるボランティア活動などをどのように保育に組み入れたらよいか職員間で話し合うとともに、あなた自身もきちんとした見通しを持っていますか。

〔5-5〕あなたは、子育て相談を実施する際に連携すべき機関等（保健センター・児童相談所・福祉事務所・医療機関等）の機能についてよく知っていますか。

〔7-10〕あなたは、積極的に研究グループやサークルに参加して独自に勉強していますか。

〔7-11〕あなたは、研修会の機会があれば、自費でも参加したいと思いますか。

●分析

1. 保育の理念・保育観について

・こども家庭庁「子ども・子育て支援新制度」が掲げる保育の「量」と「質」の大切さを職員一人一人が理解することに努め、「こどもまんなか社会」実現に向けて、子育て家庭を支えることに注力が大切となる。

2. 保育の内容について

・入園時や年2回の面談において子どもの成長、発達、家庭環境等について情報を得る機会はあるが、個人情報保護法の観点から園としてもすべてを知り得ることが難しいところもある。しかし、園児を知ることはより良い保育につながるといえるため、職員間の共有は徹底していきたい。

3. 特別な配慮や支援を必要とする子どもの保育について

・年に2回内科検診、1回の歯科検診の際には保護者からのお子様への心配事などを園から相談し、今後のあり方などの指導を得ている。嘱託医（園医）から感染症の流行時期や地域の安心安全について連絡が入るなど対応の共有や指導を受けることもある。今後も園児の安心安全のために連携を行っていく必要がある。

・療育機関との連携については担当保育士が窓口になることが多く、密な連携という点では課題が残る。連携内容については今後も会議等で周知を図っていくことが不可欠である。

・保育園連盟で年に1回開催される小児科医会との連絡交換会の内容について園内でも学んでいきたい。

4. 行事について

・2024年度は定員変更を行い、行事の見直しを随時行ってきた。年齢、発達に沿った行事内容であることを大切にしてきた。2025年度はいよいよ各クラスの人数も定員数に近づき、行事の再検討も必要である。2024年度の振り返りを基に新たな行事を築き上げることが大切である。

5. 地域の子育て支援について

・一時預かり事業は年度の前半は受け入れができ、就園前のお子様、家庭の支援につながったといえる。

・子育て支援事業の一つ「保護者フリートーク」は定着し、保護者間の関係が構築されてきたことを実感する。また、大学内のソーシャルワーク研究所内での開催は大きな一歩である。

6. 保育園の職務・役割分担について

・重大事故や不適切保育などを未然に防ぐために職務の責任の重さを痛感している。ヒヤリハットの視点と取組みに重きをおくがゆえに、業務が増えていることもある。安心安全を第一に確保しつつ、職員の心労と業務の負担軽減ができることも意識していきたい。

7. 保育士としての資質向上について

・外部研修の参加には個人差があるが内部研修はローテーションの中で参加する仕組みをとってきた。保育士は多忙ともいえる中で、いかに業務時間に学びを深めるかということを園としても重視していく必要がある。

●園長総評

2024年度は定員を変更し、就学前までの保育が始まり、園名も新しくなった。これまで乳児保育を本園の特徴として、また強みとしてきたが、新たに4歳児と5歳児の保育カリキュラム作成を行った。年度途中で年長児が入り、初めて6学年の発達を捉えた保育を行うようになった。未満児クラスの緩やかな担当制保育が積み重ねられていることで、以上児の園児は生活も遊びも落ち着いているように感じる。環境面では以上児クラスは特に未だ十分であるとはいえないが、年度計画を立てながら今後も環境整備を行うことが優先される。学院の理念、保育理念に沿って本園の強みを伸ばしていきたいと考える。

2024年度4月の在園数35名から目標としてきた50名を3月に達成することができた。安定した園児数の確保のためには保育の魅力は必須である。本園にお子様を預けられる保護者、社会のニーズを把握し、保育内容の充実に継続して努めていきたい。

保育所保育指針に掲げられている「子育て支援」においては〔保護者フリートーク〕が定着しているといえる。会の積み重ねから、保護者間の関係性の構築も感じられる。反面、参加をされない保護者への支援は課題である。個人面談や学級懇談会、日々の送迎時を有効活用し、小さな積み重ねから支えを築いていく。

社会は少子化問題が顕著である。この時代の中で保育園のあり方は問われ続け、それは園児募集につながる。社会に求められる保育園とはなにかを情報収集に努め、園全体に反映させ、求められる保育、安心安全な保育、そして魅力のある保育所を目指していきたい。

